

F2-24

神奈川県鎌倉市における観光客の一時避難場所としての寺社の可能性に関する研究

—オーバーツーリズム都市における観光危機管理について—

A Study on the Potential of Temples and Shrines as Temporary Evacuation Sites for Tourists in Kamakura City

-Tourism crisis management in cities facing Overtourism-

○森川陽翔¹, 押田佳子²
Haruto Morikawa¹, Keiko Oshida²

Abstract : In this study, we investigated the potential of temples and shrines as temporary evacuation sites in Kamakura City, a representative Japanese city that is experiencing overtourism and is also anticipated to suffer damage during earthquakes and tsunami disasters. The results suggest that temples and shrines serve as valuable open spaces, and utilizing them as temporary evacuation sites could be effective for tourism crisis management.

1. 背景及び目的—近年、オーバーツーリズム（以下、OT）によって観光地のごみ処理量や交通、避難所といった行政のキャパシティを超過してしまうことが問題視されている。加えて、災害大国である我が国では、観光客が被災者となる可能性も大いにあり、そのための滞在所や一時避難場所の整備は急務である。例えば慢性的なOTが問題視されている神奈川県鎌倉市^[1]は、2024年の時点における人口約17万人^[2]に対し観光客数が年間約1,594万人^[3]と、行政のキャパシティを遙かに超えており、観光危機管理が十分といえないのが現状である。さらに、2025年7月30日にカムチャツカ半島地震発生に伴い津波警報が発令された^[4]ことで、鎌倉市内に接続する全ての鉄道網が運休し、市内に取り残された多くの観光客等が帰宅困難者となったことは記憶に新しい。

以上を踏まえ本研究では、日本を代表するOT観光地であり、かつ関東大震災時に津波の被災記録がある神奈川県鎌倉市に着目し、観光客向けの一時避難場所として寺社活用の可能性を検討することを目的とする。

2. 調査方法—調査概要をTable1に示す。

3. 調査対象地—Figure1より、本研究では神奈川県鎌倉市全域を対象地とする。

4. 結果及び考察—鎌倉市は日本有数の歴史観光地及びOT観光地として知られる。観光客数は新型コロナウイルス蔓延により一時減少したが、近年は鎮静化したことで再び増加傾向にあり^[3]、近い将来には以前の観光客数に戻ると推定されている。Table2に2019年の観光客数、Figure1に市内の寺社の分布及び津波浸水予

想範囲、Table3に各寺社の敷地・建物面積などを示す。

Table2より、鎌倉市の観光客数は一日平均が約4万4千～5万2千人（最大14万7千人）と推定される。Table3より、市内の神社は①鶴岡八幡宮など54社、寺院は⑧円覚寺など107寺が存在し、これらの寺社には年間観光客数の約86%を占める1,637万人^[10]が訪れている。一方、2025年9月現在において観光客向けの一時避難場所は整備されておらず、一時滞在施設に指定された寺社には①鶴岡八幡宮、②鎌倉宮、⑧円覚寺、⑨建長寺、⑩長谷寺、⑫安国論寺の6寺社が、津波時の緊急避難場所に⑦小動神社、⑨長谷寺の2寺社がある。これらの空地面積をみると、一時滞在施設の合計が約17万1千m²、津波時の緊急避難場所は1万2千m²であり、これは1人あたり1m²を割り当てた場合に約17万人を収容できることから、上述した一日当たりの最大観光客数には十分に対応可能といえる。しかし、Figure1より、これらの多くは鎌倉街道沿いに集中しており、鎌倉市の北部、西部及び津波浸水予測範囲にいる観光客への対応が難しいとみられる。

そこでTable3より、寺社の空地面積に着目すると、一般的に一時避難場所に指定されやすい防災公園及び近隣公園程度の面積(2ha以上)を有する寺社のうち、一時滞在施設に指定されている①鶴岡八幡宮、⑧円覚寺、⑨建長寺の3寺社、合計約15万2千m²は、1人あたり1m²を割り当てた場合に約15万人を収容できるが、上述の通り津波災害への対応は難しい。そこで小規模な近隣公園に相当する1ha以上を有する⑩高德院、⑪明月院、⑫長谷寺の3社、さらに街区公園に相当する0.25ha以上の34寺社を加えた、計40寺社、約35万3千m²の寺社を一時避難場所に含めると、由比ヶ浜や材木座に海水浴やヨットに訪れる観光客だけでなく、鎌

Table 1. 調査概要

調査方法	文献調査(地図調査)
調査対象	鎌倉市に現存する神社54社、寺院107寺
調査内容	地理院地図 vector ^[5] による所在地及び敷地面積の建物面積の概算

1：日大理工・学部・まち 2：日大理工・教員・まち

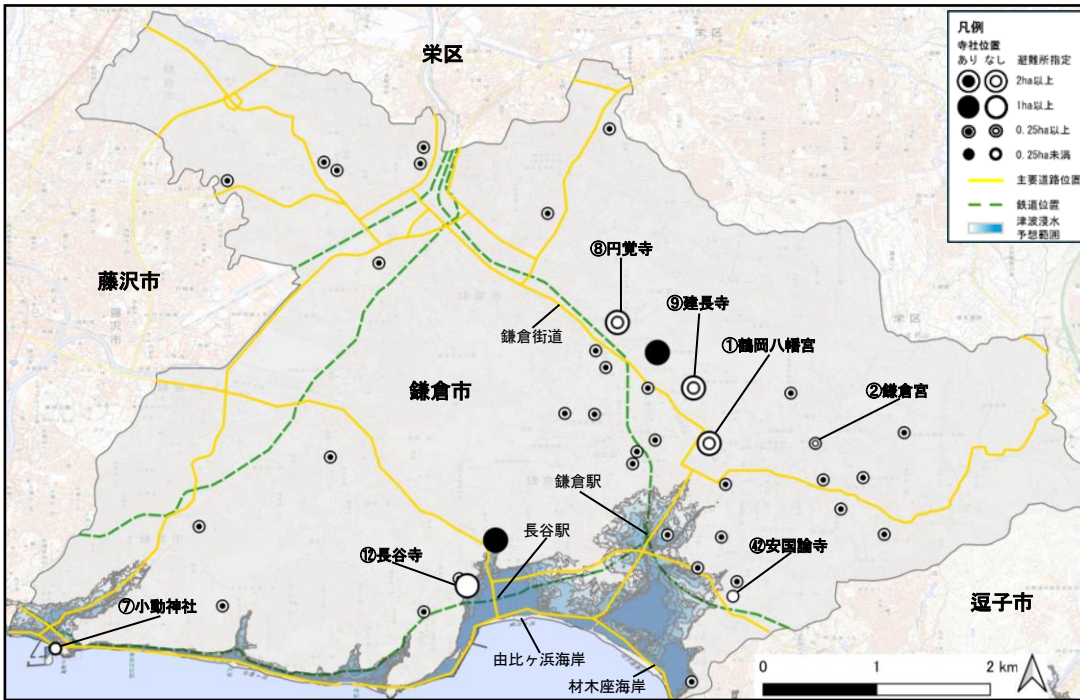


Table2.2019年の
入込観光客数^{[8][9]}

人流データに基づく観光客数 ^人	一日の観光客数		
	1月	1月の観光客数	
1月	44951	1393481	
2月	42748	1196944	
3月	43612	1351972	
4月	45230	1356900	
5月	48069	1490139	
6月	46180	1385400	
7月	42951	1331481	
8月	43613	1308390	
9月	44045	1365395	
10月	441146	1234380	
11月	43674	1353894	
12月	45480	1364400	
平均	44308	1344398	
一年間		16132776	
鎌倉市発表に基づく観光客数 ^人	一日の観光客数		
	1月	146887	4553506
	2月	43060	1205697
	3月	59592	1847354
	4月	44496	1334882
	5月	55868	1731910
	6月	74688	2240645
	7月	35960	1114772
	8月	39988	1239645
	9月	27180	815400
	10月	26260	814072
	11月	43093	1292814
	12月	26809	831098
平均	51990	1585149	
一年間		19021795	

Figure1. 寺社の所在地及び津波浸水予想範囲 (国土交通省公開データ^{[6][7]}を基に筆者作成)

Table3. 寺社の面積 (空地面積 0.25ha 以上を記載, 筆者作成)

空地面積分類	名称	敷地面積 (m ²)	建物面積 (m ²)	空地面積 (m ²)	空地率 (%)	避難場所 滞在場所	
神社	2ha 以上	1 鶴岡八幡宮	87344	13483	73861	84	○
	0.5ha 以上	2 鎌倉宮	7999	1579	6420	80	○
		3 北野神社	6612	193	6419	97	-
	0.25ha 以上	4 龍口明神社	4217	304	3913	92	-
		5 葛原神社	3734	369	3365	90	-
		6 諏訪神社	3028	52	2976	98	-
		小計	112934	15980	96954	90	2 社
	その他	7 小動神社	2247	506	1741	77	○
		47 社平均	611	93	545	89	-
		48 社合計	41414	6740	34674	84	1 社
神社計	154348	22720	131628	86	3 社		
寺院	2ha 以上	8 円覚寺	61804	12079	49725	80	○
		9 建長寺	36543	7682	28861	78	○
		10 高德院	17159	2544	14615	85	-
	1ha 以上	11 明月院	14879	1371	13508	90	-
		12 長谷寺	13552	3308	10244	75	○
		13 光明寺	11966	4387	7579	63	-
	0.5ha 以上	14 壽福寺	11436	2439	8997	78	-
		15 妙本寺	11117	2573	8544	76	-
		16 浄妙寺	9602	2702	6900	71	-
		17 常楽寺	8896	1462	7434	83	-
		18 大船観音寺	8757	765	7992	91	-
		19 東慶寺	8198	2029	6169	75	-
		20 覺園寺	8092	2116	5976	73	-
		21 報国寺	7191	978	6213	86	-
		22 本覚寺	6235	2202	4033	64	-
		23 玉戒寺	6132	1701	4431	72	-
		24 大長寺	5915	1119	4796	81	-
		25 英勝寺	5755	1330	4425	76	-
		26 龍泉寺	5716	1860	3856	67	-
		27 瑞泉寺	5689	1239	4430	78	-
		28 妙法寺	5538	1332	4206	75	-
		29 松久寺	5430	785	4645	85	-
	30 浄光明寺	5282	1699	3583	67	-	
	31 淨智寺	5052	1690	3362	66	-	
	32 弘行寺	4604	717	3887	84	-	
	33 海蔵寺	4558	1308	3250	71	-	
	34 安養院	4479	1206	3273	73	-	
	35 長壽寺	4359	975	3384	77	-	
	36 極楽寺	4352	1346	3006	69	-	
	37 久成寺	4305	1378	2927	67	-	
	38 光則寺	4136	1187	2949	71	-	
	39 黙仙寺	3817	773	3044	79	-	
	40 杉寺本	3767	933	2834	75	-	
	41 靈光寺	2870	239	2631	91	-	
	小計	327143	71454	255689	76	3 寺	
	その他	42 安国論時	3269	1268	2001	61	○
		72 寺平均	1487	635	851	57	-
		73 寺合計	110370	47048	63322	57	1 寺
	寺院計	437513	118502	319011	66	4 寺	
	総計	591861	141222	450639	76	7ヶ所	

倉市最大の観光イベントとして約 16 万人^[11]を誘う鎌倉花火大会においても対応が可能となる。また、災害が中長期化した際には、一人あたり 3.5m²^[12]の空地面積を要すと仮定すると、街区公園相当規模の寺社まで

を避難場所として活用することで、約 10 万人が収容可能となる。

以上より、OT 都市である鎌倉において寺社は貴重な空地であり、街区公園相当の規模のものを一時避難場所として活用を見込むことは、地震及び津波災害時の観光危機管理として有効と言えよう。

5. まとめ—以上より、OT 都市であり、かつ地震及び津波災害時に甚大な被害が予想される鎌倉市において、主要観光資源である寺社は貴重な空地であり、これらを一時避難場所として活用することは、観光危機管理上有効であることが推定された。特に関東大震災時に被害を受けた由比ヶ浜、材木座地区には現在も多くの人が訪れており、かつ 2025 年 7 月 30 日に発生したカムチャッカ半島地震時に多くの帰宅難民が滞在したことを踏まえると、これらの整備は急務といえよう。

6. 参考文献—[1]公益社団法人鎌倉市観光協会、いざという時の鎌倉、最終閲覧日 2025.9.30[2]鎌倉市、鎌倉の人口と世帯数(地域・町丁・字別)、最終閲覧日 2025.9.30[3]鎌倉市、令和 6 年(2024 年)、鎌倉の延入込観光客数約 1,594 万、最終閲覧日 2025.9.30 [4]鎌倉市、津波警報の発表に伴う対応について、最終閲覧日 2025.9.30[5]国土地理院、地理院 vector、最終閲覧日、2025.9.30[6]国土交通省、国土数値情報ダウンロードサイト、最終閲覧日 2025.9.30[7]国土地理院、基盤地図情報ダウンロードサービス、最終閲覧日 2025.9.30[8]国土交通省、全国の人流オープンデータ(1km メッシュ、市区町村単位発地別)、最終閲覧日 2025.9.30[9]鎌倉市、目標指標の令和 4 年実績数値、最終閲覧日 2025.9.30[10]鎌倉市、令和元年(2019 年)、鎌倉の延入込観光客数 1,902 万人、最終閲覧日 2025.9.30[11]鎌倉市観光協会、2025 年の「鎌倉花火大会」について、最終閲覧日 2025.9.30[12]公益社団法人日本 WHO 協会、2024 年 2 月：スフィア・ハンドブックを届けたい、最終閲覧日 2025.9.30